

麻酔・救急

Anesthesiology, Emergency & Critical Care Medicine

ユニット責任者：救急医学 教授 平 泰彦

ブロック名		期間	ブロック責任者
第1ブロック	麻酔・救急①	10月29日～11月1日	森澤 健一郎

1. ユニット概要・学習内容

麻酔：麻酔の概念、種類を理解し、手術麻酔の一連の経過と基本的なモニターを理解する。外科侵襲と麻酔薬の影響が加わった際の生体反応について理解することを通して、周術期における患者の病態を理解する。

救急：救急医療と集中治療について基本的な総論を学ぶ。胸部外傷、腹部外傷、多発外傷における生体反応を理解し、病態に即した初期対応を学ぶ。重症病態の最終段階であるショックの病態を理解し、救急外来と集中治療室における対応を学ぶ。心肺停止に対する世界標準の蘇生法（BLS、ALS）は専門領域に関わらず、医師が習得しなければならない内容であり、実践と他者への教育が可能となることを目標とする。日本人の死生観の変遷とともに変化している臓器移植の歴史と現状を学ぶ。有数の地震大国である本邦の災害医療を政治的政策と現場での活動を併せて学ぶ。

2. 到達目標

- 1) 麻酔の概念を説明でき、各種麻酔時の手順、使用薬剤やモニターを説明できる。
- 2) 生体に侵襲が加わった際の反応を説明できる。
- 3) 外傷、ショックによる総論と生体反応を説明できる。
- 4) ショックの病態と分類を説明できる。
- 5) 心肺停止における蘇生法（BLSとALS）を説明し実践できる。
- 6) 臓器移植と災害医療における特殊性を説明できる。

3. 学習上の注意点

麻酔学、救急・集中治療学の共通概念は、侵襲に対する生体反応（炎症反応）の理解と対応・治療である。生体反応（炎症反応）は、本来は生体の恒常性を維持するための防御反応であるが、過剰な侵襲によってコントロールを失うと、致命的な病態となる。侵襲時の呼吸、循環、体液状態といった生体反応を理解し、生体の恒常性として適切な状態に維持することが重要である。2年生では、麻酔学、救急・集中治療学の総論を学び、他領域における病態の理解を助ける。

4. 教科書

救急診療指針（へるす出版） — 救急医療の総論を学ぶ。

集中治療医学（秀潤社） — 重症病態を総論的に学ぶ。

標準麻酔学（医学書院） — 麻酔総論、概念を学ぶ。

周術期管理チームテキスト（日本麻酔科学会） — 麻酔の臨床を平易に学ぶ。

Basics of Anesthesia 7th ed.（Elsevier） — 医学生に最適な洋書。Kindle版あり。

5. 成績評価

評価項目	実施回数	評価割合	備考
定期試験	2	100（%）	

当ユニットでは学年末再試験を実施する。

6. オフィスアワー

所属	役職	氏名	時間	場所	連絡先
救急医学	教授	藤谷 茂樹	水曜 12:00～12:30	救急医学 医局(東館 3F)	内線 3931
麻酔学	教授	井上 莊一郎	水曜 11:30～12:00	麻酔学教室(医学部本館4F)	内線 3453
救急医学	講師	森澤 健一郎	事前にアポイントを取ること		kmori

メールアドレスは @marianna-u.ac.jp が省略